

学校新設などに関する市民意向調査「提言書」まとめ

1. 市民意向調査について

◎市民意向調査の開催について

- ・市民としてこのような行事に参画できたことを嬉しく思います。市民の意見にも耳を傾けてくれた市長にも感謝いたします。
- ・市民の意向を聞く機会を改めて作る意思表示をしてくださった市長に感謝。
- ・建設候補地の安全性、自然環境の保護に関しては、第三者機関による客観的な評価をもとに議論すべきであり、現時点での憶測・推測を含めた市民世論醸成は危険。
- ・市長が「市民意向調査をするのが夢だった」と話されていたが、今回の内容はあまりにも議論がないまま「投げられた」ようにしか感じられない。「ブラックボックス」が多すぎて判断材料が乏しいうえに、これまでどういった議論が重ねられたかもわからないまま結論だけを求められたように感じた。これでは、市民の意向を表現しようにもできない状況であるし、正確な判断やミーティングもできない。それゆえ、招く側・参加する側に「無責任」が蔓延した内容になったのではないかと思う。
- ・今後このような機会には、前後関係を明確にさせていただき、参加する側も議題に対する知識・意見を持った上で参加しなければならない。
- ・「学校は誰の、何のために存在するのか？」という根本的な問題に対して誰も切り込んでいないと感じた。そもそも教育の在り方を市民に問う考え方も無責任と言わざるを得ない。
- ・意向調査の質問も、カネや建物の使い道や地域のエゴが飛び交っているようにしか感じなかった。大いに反省すべき市民意向調査である。

◎意見の集約方法について

- ・現在の福間小/福間南小/福間中の現場の声を再度ヒアリングするべきである。
- ・PTA、自治会などから出ている意見も公示してほしい
- ・校区、人口密度、通学路の安全性、防災拠点としての観点、オンライン授業の活用など、議論は不十分な気がします。

◎調査結果の活用について

- ・今回の意見交流会へ市民に参加させる事が意見吸い上げした実績取りだけならば、今後はやめて欲しい。
- ・本気で市民意見を反映したいならば、市民投票を行うべきである。
- ・今後の検討会議等において、今回の市民意向調査の「提言」を少数意見も含めて吟味の上、可能な限り採用してください。

2. 問題解決に向けた進め方について

◎二項対立ではなく

- ・二項対立で市民世論を分断するような政治手法を用いて、教育を政治に巻き込まないように留意。
- ・自然豊かな里山を背景とした環境の学校建設は大いに賛同です。新しい時代を生きるチカラを育む教育への投資についても同じく賛成です。建設費や立地の安全性を主軸とした竹尾 VS 手光、あるいは教育委員会 VS 市長という二項対立での対立軸をすえるような狭い議論は市民は望んでいないと思います。
- ・教育委員会と市長の間で意思疎通がどうして図られないのか疑問に思う
- ・市長、教育委員会が対立するのではなく、お互いに歩み寄って話し合ってほしい。
- ・前提となる検討状況がまったくわかりませんでした。結局は公民館、竹尾緑地の2案に関する市長と教育長との権力闘争の話なのでは？とってしまいます。

◎取組み姿勢について

- ・現在通学して学んでいる生徒や先生などの事を最優先に考えるべきである。
- ・「Children First」の考え方に則って、子どもたちの将来の教育環境をどうすべきかを考えるべきである。
- ・福津市市政全体の課題として、総力をあげて取り組むべき。
- ・市政と市民が一体となって取り組むことが重要。
- ・教育委員会は、市の関係部署ときちんと連携をとり、総合的なまちづくりの一環として学校建設を進めてほしい。
- ・教育委員会、市長両者歩みより、子どものために、両者のプランの良いところをmixした上で1チームとなり最善案を纏めてほしい。
- ・新設ありきではなく、ゼロベースから検討しなおしていただきたい

◎市民への情報提供

- ・広報で、福津市で今人口が増え、子どもたちの学ぶ学校が過大規模化している経緯を出すべき。
- ・それぞれのプレゼンをもう一度、「福津市民が必要とする学校建設」という視点で市民に再プレゼンできるよう検討してください。
- ・学校候補地選定の経緯を公の場で説明してほしい。
- ・2案に絞った経緯や、他の代替案の検証など、もう少し議論や開示が必要。
- ・決定後の工事変更等による膨大な費用計上がされないように、予算の上限を明示してください。

◎公正で品位ある議論を

- ・SNS や様々な団体を使って、誹謗中傷などはやめるべきである

- ・教育の未来を語るべき皆さんが、児童や生徒に見せることができないような手法で議論を戦わせることはないようにしてもらいたい。
- ・市長から「教育行政の介入と言われてもやります」という趣旨の発言があったが、市民を分断する一方の先頭に立つことが市長としてのリーダーシップではなく、市民を融和して先頭に立つことが市長としてのリーダーシップとして期待している。
- ・第3回が終了後に、教育委員会のひとりが参加者の女性に「もっと援護射撃をしてくださいよ」と発言していた。これは大問題です。
- ・小学校で唐突に学校建設に係るアンケート調査が行われたが、教育委員会は学校長を指導監督する立場なので、中立性をたもつべく学校長・教職員を指導してください。情報を正しく提示しないままのアンケート調査は不要な憶測を生みかねません。

3. 教育の内容と質について

◎教育の質向上

- ・新設校配置後にどのような教育の質転換が実現されるのか。新設校配置までの建設準備期間の教育の質はどのように担保されるのか。この2点こそが、どのような新設校を設置するのかを意思決定する最重要項目。
- ・教員の負担増解決に向けて、教員たちが生き生きと教育に没頭できる福津市の教育システムを実現し、モデル教育区となるような意思表示を。
- ・地域の繋がりを増やすことが学校教育の向上に繋がると思います。

◎学校教育に求めるもの

- ・人との共存がうまくいくコミュニケーション能力を高めるような教育
- ・体育系のみならず文科系の活動でも、子どもたちの多様な希望を叶えてあげる環境作りを検討して頂きたい。
- ・自校には無い他校の部活にも参加できるようにするなど、子どもたちの個性を生かす多くの選択肢を提示してやる努力も必要。
- ・今までのやり方に固執しない柔軟な教育へ。一人も取りこぼさない教育、ICT教育の推進、自宅学習の確立。
- ・リモート教育も新たな取組として、教育の電子化の推進をお願いしたい。
- ・自然を活かした伸び伸びとした教育や、地域とともにある教育等、ゆとりある教育も必要。
- ・教育は子どもを中心にすえ、自由で人を大切に作る人づくりを目指して欲しい。

4. 小中一貫教育とコミュニティスクール（CS）について

◎小中一貫制についての理解

- ・小中一貫教育のもつ意味を再度丁寧に説明する必要がある。
- ・小中連携・社会連携は教育の質向上観点から、福津市の義務教育課程にとって小中一貫教育は肝とも言うべきコンセプトで、5-4制への転換を含めた小中一貫教育を施設分離型という形ではあるものの、挑戦する意味は大きい。
- ・5-4制は現代の児童生徒の心身の成長に合致すると思う

◎コミュニティスクール

- ・学校、家庭、地域が一体で子ども達を見守っていける環境作り
- ・教育大綱および教育委員会の掲げる方向性に関しては賛成である。福津市のコミュニティスクールを中心とした考え方を推し進めるのであれば、協力体制はもっと強化しなければならない。市民の認知度・意識はまだ低いのではないか。
- ・コミュニティスクールの活性化を推進するのであれば、課のタテ割りをなくして市全体で取り組むべき課題である。
- ・郷づくり協議会とCSのあり方の意見交換をすべき

5. 過大規模校の緩和・解消に向けて

◎学校新設

- ・中央公民館の地に小学校建設
- ・竹尾緑地に中学校建設
- ・福間小区に小学校を一つ、福間南小区に中学校を一つ建設する。56億で2校建てるには、企業誘致や常識を取っ払ってたくさんのアイデアを出してください。
- ・中央公民館の地に中学校を新設し、「福間小とわかたけ中」「南小と福間中」で5-4制の小中一貫校とする
- ・施設一体型の小中一貫校の建設
- ・今足りないのは小学校。中学校建設は先送りにし、最優先課題に取り組むべき。
- ・手光案の小学校のみでは、中学校の過大規模化に対応できない
- ・学校を増設するなら、（施設一体型の）小中一貫校がふさわしい。全市から通学できる小中一貫校を1校設置するのが良い。

◎学校新設しない方法を検討

- ・新設ありきではなく、ゼロベースから検討しなおしていただきたい（再掲）
- ・校区再編、校区選択、広域行政などで児童数の緩和を図ってほしい。
- ・スクールバスの運用。

6. 校区再編について

◎校区再編には子どもや教員の意見を

- ・校区再編は、生徒・児童ならびに教員の意見が最大限尊重されるべき項目。
- ・市長案として出されている手光への小学校新設を決定するのであれば、校区割は児童生徒への影響が大きく最小限の対応とすることが望ましいと結論づけた通学区域審議会の答申を実質廃棄する根拠と同時に、更に丁寧な市民への説明が必要。

◎校区見直しが必要

- ・学区制を大幅に見直し、学校別の学生数均整化を図り、そのための手段としてスクールバスを導入。
- ・郷づくりにとって、学区見直しは、地域活動をより活性化できるという効果もある。市となったのだから、市全体の視点から学区制を見直すべき。
- ・花見地区で校区再編を経験したが、福津市は、他自治体の校区再編成功例を参考にしない全体の抜本的な校区の見直しをすべき状況にある。
- ・移行期間を設け校区の見直しをして、その間に最適な場所での学校建設をする。
- ・全校区再編。津屋崎小・福間小・福間南小 → 勝浦小・神興小・神興東小・上西郷小へ児童数を移す。
- ・校区変更、校区外に通うことに賛同する保護者の把握等、建設せずすむ方策を検討することが重要。

◎校区選択の幅を広げる

- ・学区制を超えた入学などを大幅に認める事で、各学校の特性を生かした多様な教育機会を与える事ができるのではないか。
- ・隣接市（古賀・宗像）の学校も含めた校区選択を可能とすべき。
- ・校区再編、校区選択、広域行政などで児童数の緩和を図ってほしい。（再掲）
- ・校区ありきになっていないか。校区の特色を生かし、自由に選択できるようにできないか。

◎校区単位の特色ある学校づくり

- ・竹尾緑地の小中一貫校、また他の中学も同様の小中一貫校にして、市内で教育差別が無いように。
- ・学区制を超えた入学などを大幅に認める事で、各学校の特性を生かした多様な教育機会を与える事ができるのではないか。（再掲）同時に、各学校がその地域性を含めた特色を伸ばす事で、多様な環境作りに資する。

7. 新設校建設について

◎既存の施設の活用

- ・生徒数が減った小学校を増築するなどしての再利用

◎費用

- ・福津市の小学校や中学校をリニューアルする為には、どのくらいの費用がかかるのか検証し、その費用と新設費用の比較対象をすべき。

◎将来の活用について

- ・将来学校が必要なくなっても使える「場所」がいいのではないか。
- ・子どもの数が減少した後の活用に耐える建築としていくべき。

8. 新設候補地について

◎候補地選定に際して

- ・新しい学校をつくるなら、風通しの良いのびのびとできる「場所」が欲しい。街の中よりは周りに自然がたくさんある「場所」がいい。
- ・自然豊かな里山を背景とした環境の学校建設は大いに賛同です。新しい時代を生きるチカラを育む教育への投資についても同じく賛成です。建設費や立地の安全性を主軸とした竹尾 VS 手光、あるいは教育委員会 VS 市長という二項対立での対立軸をすえるような狭い議論は市民は望んでいないと思います。(再掲)

- ◎中央公民館案について
 - ◎竹尾緑地案について
- } まとめ(その2)

9. 今すぐやるべきこと

- ・過大規模化の緩和・解消に向けて、今すぐ対応できることから取組んでいくべき。
- ・令和6年までの教育もしっかり検討してほしい。